



# ちからこぶ

福祉通信「ちからこぶ」2009年9月号 佐藤 一樹 書



## 福祉体験ボランティアスクール



8月1日から22日の間、「福祉体験ボランティアスクール」を行いました。今年は、小学生から大学生まで、9名の方が自分の希望する町内の福祉施設で、ボランティア活動を体験していただきました。

『にこにこハウス（宅老所）』には、職員の方のお孫さん姉妹が沖縄から遊びに来ていました。1年生になるお孫さんは「カチカチ山」を読んでくれたり、3年生のお姉さんは「ちいちゃんの手」を何も見ずに、大きな声で朗読してくれました。沖縄の踊りも披露し、皆楽しく過ごしていました。

『いで湯の里』では、音楽ボランティアの方のピアノ演奏と歌に合わせ、小学生がスズやタンバリンを鳴らして盛り上げてくれました。中学生は「お年寄りとおふれあいたいから参加しました。“ありがとう”という言葉と笑顔を見ると“もっと頑張らなくちゃ”という気持ちになりました。」と話してくれました。

今月の表題を書いてくださったのは、佐藤一樹さん。

「小学4年生から毎年夏休み中に、星川のにこにこの湯へボランティア体験をしています。きっかけは、祖母が利用していたため、自分も行ってみたいから」だそうです。小学生の頃は入浴時の洗髪のお手伝いや、お話をしました、「今日はレクのお手伝いでゲーブルゲームをしました。どのおじいちゃんやおばあちゃんも元気でとても楽しそうな姿を見ると、自分も元気になりました。この6年間ボランティアに行き、お年寄りとおふれあいたいから参加しました。この6年間ボランティアに行き、お年寄りとおふれあいたいから参加しました。この6年間ボランティアに行き、お年寄りとおふれあいたいから参加しました。」

この経験をいろいろな場面で生かして、たくさんの方とおふれあい、またボランティア活動に協力していただきたいです。

このひとに注目  
佐藤 一樹 さん(中3)



\*福祉通信「ちからこぶ」は、再生紙を使用しています。

